

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	中央区
学 校 名	大阪市立南大江小学校
学校長名	植田隆義

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立南大江小学校では、第6学年121名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和5年度は国語科と算数科の2教科について調査を行った。

国語科の平均正答率は75%で全国平均を7.8ポイント上回った。正答数別（全問題数14問）の分布状況は、正答数13問（正答率92.8%）を頂点として正答数11問（正答率78%）から正答数13問（正答率92%）の間で正答率分布の高い山が形成されている。正答数10問以下の分布の状況はいずれも全国平均を下回る分布状況となっている。

算数科の平均正答率は72%で全国平均を9.5ポイント上回った。正答数別（全問題数16問）の分布状況は、正答数16問（正答率100%）と正答数12問（正答率75.0%）に大きな分布の山があり、いずれも16.7%にあたる児童数の分布がみられる。特に正答数16問（正答率100%）の分布割合は全国平均の3.7倍と高い値となっている。正答数10問以下の分布状況はいずれも全国平均を下回る分布状況となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語科]

平均正答率は75%で全国平均を7.8ポイント上回り、平均無解答率は1.9%で全国平均を2.9ポイント下回った。学習指導要領の内容別に正答率を見ると、「B 書くこと」の設問の正答率が25.4%と低い値となっている。全国平均は26.7%であり、全国平均に近い値が得られているものの、他内容の設問の正答率が全国平均を5～10ポイント程度上回る値が得られていることからすると、この「B 書くこと」の正答率は低位にとどまっていると考えられる。

[算数科]

平均正答率は72%で全国平均を9.5ポイント上回り、平均無回答率は1.3%で全国平均を2.1ポイント下回った。学習指導要領の領域別に正答率をみると、いずれの領域についても全国平均を5～10ポイント上回っているが、「B 図形」領域の平均正答率が57.0%（全国平均48.2%）と他の領域よりも低い値となっている。

質問紙調査より

- ・「自分には、よいところがあると思う」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合が79.6%となり全国平均を3.9ポイント下回った。
- ・「学校に行くのは楽しいと思う」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合が78.8%となり全国平均を6.5ポイント下回った。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して肯定的な回答をする児童の割合は72.1%となり全国平均を9.7ポイント下回った。

今後の取組(アクションプラン)

[国語科]

- ・基礎学力の定着を進め、正答数6問（正答率42.8%）以下に分布する児童を減らしていく。
- ・「書くこと」の力量を高める学習を進める。特に、複数の情報やデータを組み合わせて求められる文章を書く力をつけていく。

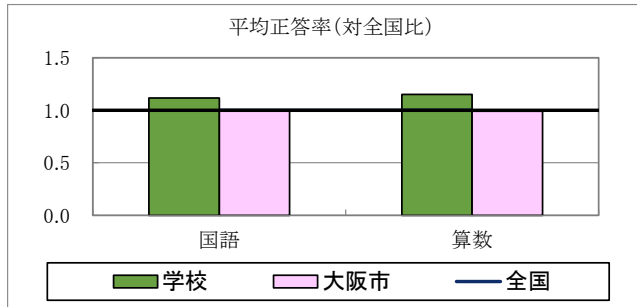
[算数科]

- ・基礎学力の定着を進め、正答数8問（正答率50.0%）以下に分布する児童を減らしていく。
- ・図形領域の学習の充実を進めていく。各図形の性質や定義の理解を進め、それらをもとに思考することができるようにしていく。
- ・協働的な学びを増やし、多様な意見や考えに触れて自らの考えを深め自らの意見を形成して表現していけるようにするとともに、自他ともに認めあう姿勢を育てることで自己肯定感および自己有用感を高めていく。

【 全体の概要 】

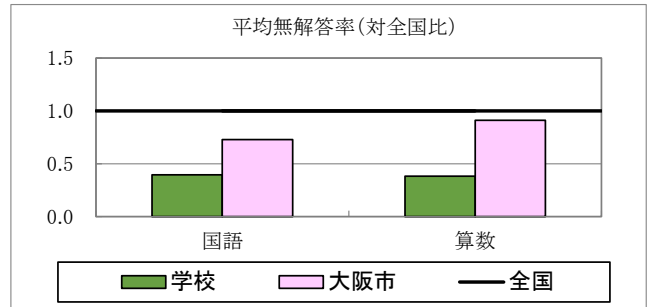
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	75	72
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



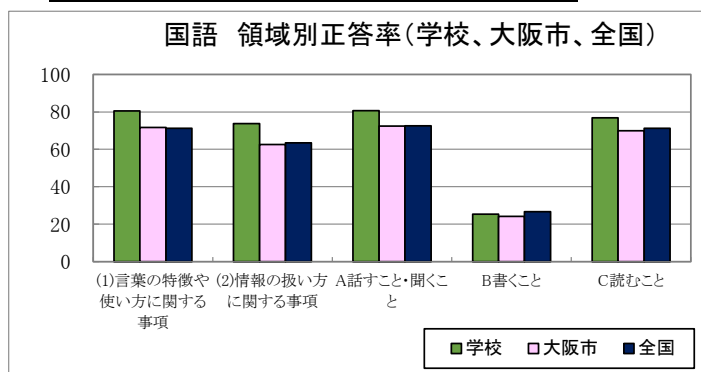
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.9	1.3
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



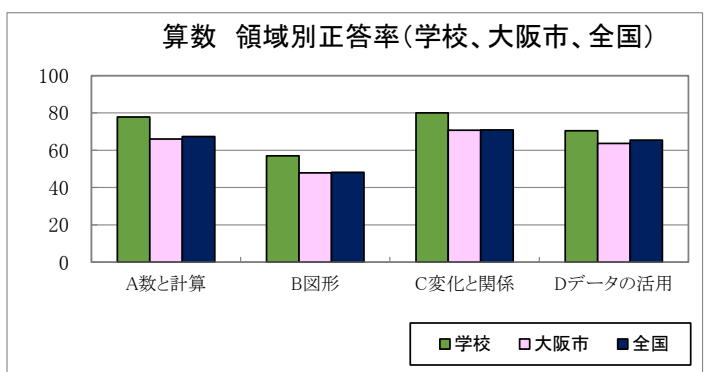
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	80.5	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	73.7	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	80.7	72.4	72.6
B 書くこと	1	25.4	24.2	26.7
C 読むこと	3	76.9	69.9	71.2

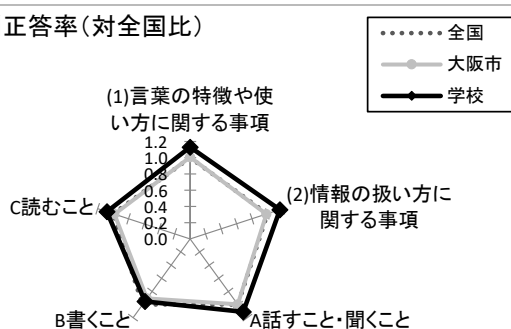


【 算 数 】

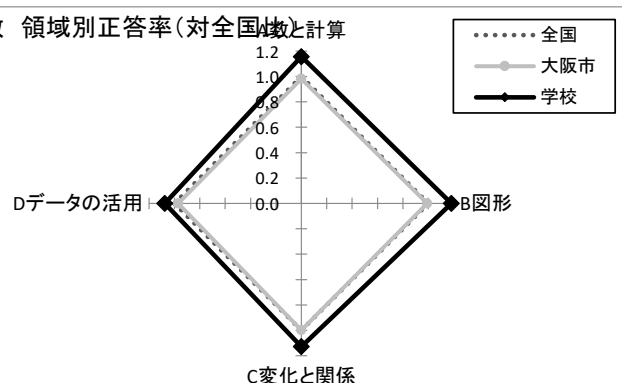
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	77.9	66.1	67.3
B 図形	4	57.0	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	80.0	70.8	70.9
D データの活用	3	70.5	63.6	65.5



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)

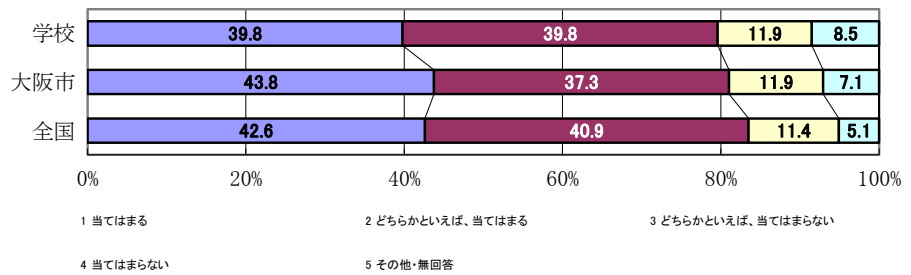


児童質問紙より

質問番号
質問事項

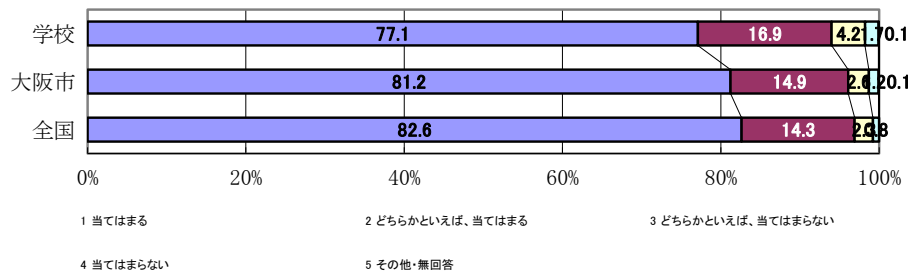
4

自分には、よいところがあると思う



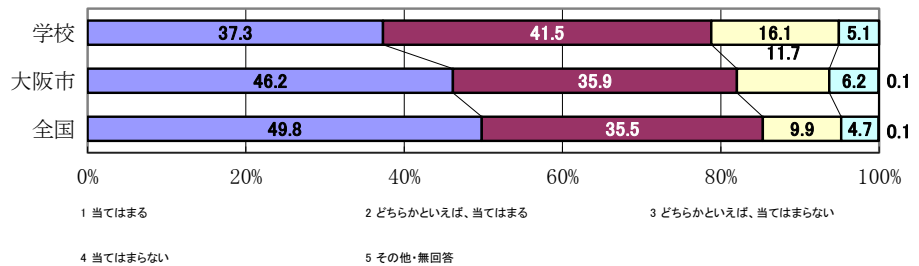
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



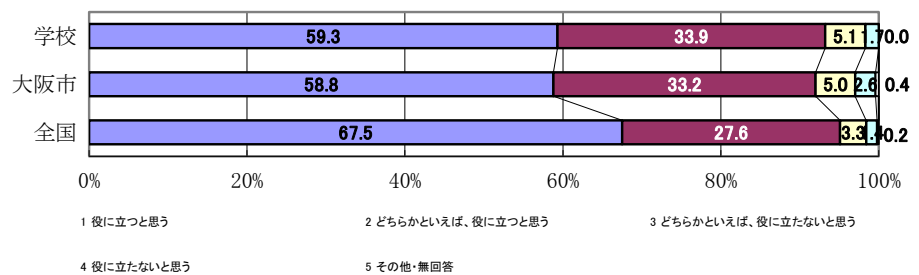
12

学校に行くのは楽しいと思う



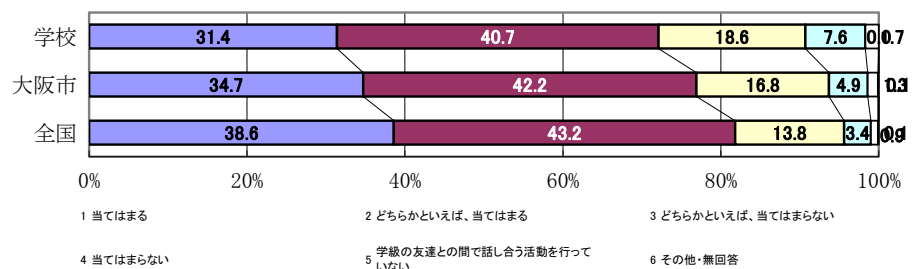
30

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

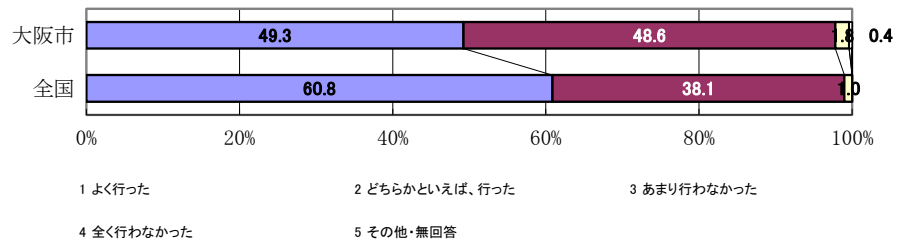
質問番号

質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

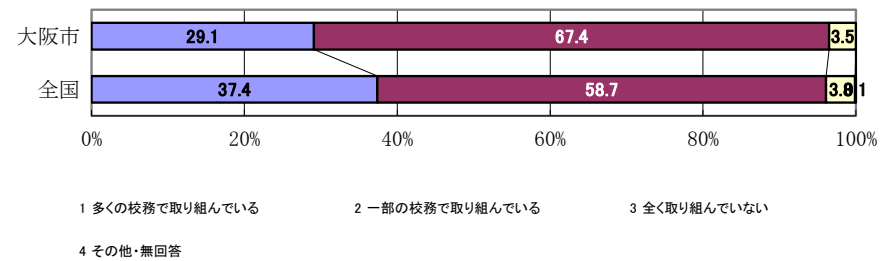
学校「どちらかといえば、行った」を選択



17

ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化(クラウドサービスの活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等)に取り組んでいますか。

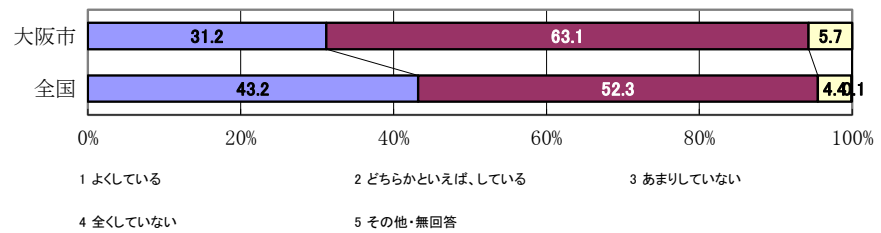
学校「多くの校務で取り組んでいる」を選択



20

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

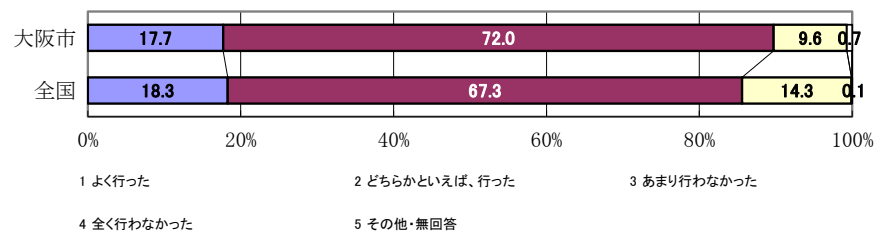
学校「どちらかといえば、している」を選択



35

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた

学校「どちらかといえば、行った」を選択



47

調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動をどの程度行いましたか

学校「よく行った」を選択

